

1の3 道徳科学習指導案

場 所 1の3教室

指導者 片桐 優美

教材名 親切, 思いやり 親切にすると気持ちがいい 「はしの上のおおかみ」

(1) めざすコミュニケーションの姿

自分と友達の意見との共通点や相違点を理解して聞く姿

(2) 本時のねらい

親切にしたときの気持ちよさを知り, 誰に対しても思いやりの心を持って接しようとする心情を育てる。

(3) 学習の展開

時	学習のながれ	・手だて ◎評価 ★めざすコミュニケーションの姿こせまるための手だて
5	<p>1. 「ありがとう」についての経験を想起する</p> <p>○「ありがとうの手紙」をもらってどんな気持ちになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嬉しくなった。お返ししたくなった。 ・優しくしてもらったからお手紙を書いたよ。 <p>＜おおかみはどのようにかわったのかな＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親切なことをしてもらったら嬉しくなることに気付くために, 手紙をもらった人だけではなく, 送った人の話も聞く。
20	<p>2. 教材「はしの上のおおかみ」を読み, 考え, 話し合う</p> <p>○どんな「ありがとう」があったかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおかみからくまへのありがとう。 ・うさぎからおおかみへのありがとう。 <p>○おおかみはくまの後ろ姿をどんな気持ちで見えていたかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くまさんは大きいのにいばらないんだ。 ・優しくされて嬉しいな。僕もしたいな。 <p>◎最初と最後の「えへん, へん。」の心は変わったかな。</p> <p>同じかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しい「えへん, へん。」に変わったよ。 <p>○どうして前よりずっといい気持ちになったのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親切にした人もいい気持ちになるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多角的に考えるために, 通せんぼをされたうさぎの気持ちにもふれる。 ・親切にされたときのおおかみの気持ちの変化に気付くために, 今までのおおかみとの対比をしながら考える。 <p>★自分の意見と友達の意見が同じなのか違うのかを視覚的にわかるようにするために, 赤白帽子を用いる。</p>
10	<p>3. 自己をふり返る</p> <p>○おおかみやくまのように人に親切にしたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい子におもちゃをかしてあげた。 	<p>★どのような意見が出ているかを視覚的に児童が把握するために, 共通点・相違点に分けて板書をする。</p>
5	<p>4. まとめ, ふりかえりをする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>親切にしてもしてもらっても嬉しくなるよ。親切にしてももらったら他の人にも親切にしたいよ。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・これからは, 小さい子にも誰にでも優しくしてあげたいな。 	<p>◎親切にしたときの気持ちよさを知り, 誰に対しても思いやりの心を持って接しようとする心情を高めている。(ノート・発言)</p>

【実践のウリ】

中心発問では、自分の意見を主張するときに赤白帽子を用いた。自分の考えと同じか異なるかを視覚化するために、自分の意見に合わせて、赤色・白色帽子をかぶった。

また、おおかみの心の変化がわかりやすいような板書を工夫した。子供からの意見を板書するときには、共通点・相違点別に板書するように意識して行った。友達の見解の内容まで理解しながら聞けるような授業を目指した。

【実践例】

2学期の1年生の様子は、ほとんどの子供は自分の話したいことは一生懸命話している。しかし、友達の話の話を聞くときには、体を向けてしっかりと聞く子供もいれば手遊びをして聞いている様子の子供もいる。話を聞いている子供も、内容までしっかりと理解しているかはよく分からない状態である。そこで、この授業では、自分と友達の見解との共通点や相違点を理解して聞くことを意識できるような手立てを二つ行った。

一つ目は、中心発問の「最初と最後の「えへん、へん。」のおおかみの心は変わったかな。同じかな。」で自分の意見を主張するために赤白帽子を用いたことである。おおかみの心は変わった→赤色帽子、変わらなかった→白色帽子をかぶった。自分の意見が誰と同じなのか、周りを見渡す様子が見られ、すぐに視覚的にわかったようである。また、そう思った理由を聞くときにも誰がどのような意見を言うのかいつもよりも真剣に聞く様子が見られた。

二つ目は、おおかみの心の変化が視覚的にわかりやすくなり、子供からの意見を共通点・相違点別に書いたり、板書の工夫をしたことである。くまに親切にされて変化するおおかみの前後を比べることで、本時のねらいである、「親切にしたときの気持ちよさ」に気付くことができた。また、意見を共通点・相違点別に板書することで、自分は誰と同じ意見なのか、自分とは違う意見がこんなにもあるのかと視覚的に理解できたようである。同じような意見ばかりでなく、いつもよりも多様な意見が多く出ていたため、低学年では、教師側が共通点・相違点を位置づけたり価値づけたりすることが有効であると感じた。

【成果】

赤白帽子で自分の意見を主張することで、視覚的に誰と意見が同じなのかはわかりやすかった。子供の意見の共通点・相違点別に意識して板書することで、視覚的にどのような考えが出たかわかりやすかったようで、同じような意見だけではなく色々な意見が出てきた。

【課題】

自分の意見を赤白帽子で主張したが、全員が赤色帽子をかぶっていたため、子供同士で議論し合うという場面は見られず、あまり考えを深めることができなかった。もう少し意見が分かれるような発問をしたらよかったと感じた。役割演技やワークシートに記入する活動がなかったため、発言をする子供の様子しか見取ることができなかった。タイムマネジメントを考慮しながら、ワークシートやペア活動を行いながら、一人一人の思考を見取る場を設定していく必要があると考える。

【資料】

資料1 赤白帽子で意思表示する様子



資料2 板書